

北欧三ヶ国と日本の税金の違い

小千谷市立東小千谷中学校 3年 関 美華

税金と聞くと私は真っ先に消費税が頭に浮かぶ。店で何かを買うときに一円玉や五円玉の小さい小銭を会計で出すことが面倒だなと思うことがよくある。日本の標準消費税は一〇パーセント、食料消費税は八パーセントとなっている。例えば、EU加盟国は最低十五パーセントの消費税を導入することが定められている。日本の消費税はEU加盟国に比べると少し低めに感じる。

では、世界的に見ても税率が高い北欧三ヶ国はどうでしょう。北欧三ヶ国の社会制度は「高福祉・高負担」という良いサービスを受けるならば、高い税や社会保険料を負担しなければならないという政府の考えのもと政策を行っている。

北欧三ヶ国の標準消費税は二十二パーセントから二十五パーセント。食料消費税は十二パーセントから十七パーセントと日本よりはるかに高い。

これだけ国民に負担が大きいと、どのようなサービスが提供されるのか。例えば、ノルウェーでは出産や子どもの学費が無料で提供される。日本と同じく高齢化が進んでおり、高齢者向けの社会保障サービスの充実。一方で元気な高齢者の社会参加を促す取り組みを行っている。スウェーデンでは子育て支援に力を入れており、児童手当と両親手当の両方を支給。出産費や二十歳までにかかる医療費、大学の学費無料、病気や障害がある子には別途で手当が支給される。フィンランドは教育大国として大学までの学費を無料とし、学力格差を極力なくすことで国全体の底上げが狙いである。

北欧三ヶ国の政府は「国が責任をもって国民の面倒を見る」という考えで政策が行われている。だから国民負担が大きくても国民がリターンを実感しやすい。

日本は北欧三ヶ国と比べると国民がサービスを実感しにくいと思う。しかし、毎日使っている道路の工事や医療費の一部負担、小中学生に無料で教科書の提供など普段身近にあって当たり前のもに税金は使われている。北欧三ヶ国と日本では税金の使い方に違いはあるが北欧三ヶ国も日本も税金があるから国民の生活は安定し、安全に暮らしていける。SNSなどを見ると税金に対して批判的な意見が投稿されているが、すべて国民に都合が良いように税金を使ったら国が成り立たなくなってしまうと思う。

日本は世界的に見ても治安が良い。これは秩序を守ってくれる警察や街のゴミを回収する人、子どもに教育をしてくれる教師など税金が給料の人やそうでない人たちが助け合い、未来の子どもたちへ安全な国を渡すために税金があるのだと私は思う。